

室町時代のご当地曲 能「西宮」を謡おう！

能「西宮」を謡おう！実行委員会（関係課：文化振興課）

事業費 544,807 円
助成額 300,000 円

●当初の課題・事業目的

西宮市が「住み続けたい街」として永く市民に愛される街になるためには自分たちの街を再認識し地域への愛着や誇りを感じる事が大切です。地域の文化や歴史に触れ、現在から未来への意識を高めることが必要であるとの思いから、西宮をキーワードとした伝統文化や地域の歴史に親しみ知識を深める機会づくりを目的として開催しました。



代表 寺澤 幸祐

●事業概要

現在は上演されていない能の演目『西宮』をテーマとし、以下の4項目にて実施。

- 【1】謡ワークショップ（10/24～12/3・全9回・参加費 500 円/回）参加者延べ 50 名
- 【2】専門家等による講演会（11/28 廣田神社・参加費 500 円/回）参加者 69 名
- 【3】ワークショップ成果発表と朗読・謡による上演（12/5 西宮市甲東ホール・無料）参加者 47 名
- 【4】ストーリー絵本制作（1月・25冊を制作、市内図書館等に寄贈）

公演朗読：川邊暁美（アナウンサー）、

講演会登壇：関屋俊彦（関西大学名誉教授）、西井璋（廣田神社宮司）、上念省三（舞台芸術評論家）

絵本挿絵：西村かおり（スタジオかえる）

能楽指導・公演出演：吉井基晴、寺澤幸祐、久田陽春子（団体構成員）

事業統括進行・絵本あらすじ：沖けい（団体構成員）

令和2年度より継続事業。



●事業の成果・工夫した点

年代層や幅を広げるために、謡が初めての人の基礎練習の回、子ども対象の講座を追加。お能や演目への親近感や興味関心を高めるため、朗読や絵本制作のほかにも紙芝居（試作）、あらすじ語りなどを各所に組み入れた。講演会では伝統芸能と地域の歴史的背景をクロスさせ内容をより深めるため、登壇者の鼎談を入れた構成とした。

●苦勞した点・今後の課題

催しの実施は緊急事態宣言解除後ではあるもののやはり集まりへの参加を控える動きも見られ、定員越の項目もあるが全体的に予定参加数には至らなかった。施設等での配架チラシの効果が行き渡らないなか、市の広報ソースに頼り市民の方に情報が届いた感がある。反省点とし、情報発信の内容や方法についての検討を課題としたい。

●代表者の感想

2年目の事業を無事に終了でき、多くの好評や応援のお声なども頂いて有難く思っています。歴史や芸能を通して西宮という地への興味や関心が広がる機会になれたのではと感じています。能「西宮」が地域の文化的宝物として、多くの方が知りろずさめる曲になるよう今後も活動していきたいと思ひます。